

みらいへ

令和6年度 後期 学校評価アンケート(12月実施)の集計結果をお知らせします

12月には「後期 学校評価アンケート」について、お忙しい中ご回答いただきありがとうございました。集計結果を全職員で分析を行い、令和7年度の教育活動について検討を重ね、準備をしています。それらについてご報告いたします。(質問の言葉は児童への質問に使用した文言です。)

今年度は、前期にもお伝えしたように「主体性」に重点をおいて教育活動に取り組んできました。2月21日には、「6年生ありがとうの会」が開催されました。どの学年も6年生の卒業を祝いたいという気持ちであふれていました。普段の6年生の姿を子どもたちはよく見ていて、替え歌の歌詞や劇にして表していました。また、各委員会のオリジナル活動も盛んに行われました。ほんの一例として、「メロディー委員会のカラオケ大会」「生活安全委員会の日常生活の見回りにおける気付きから安全に関するメッセージポスター掲示」など、安心して楽しく過ごせる学校を目指した活動ばかりでした。子どもたちの主体的な表れを来年度も継続して支援していきたいと思えます。



表の中で色がついている箇所は、前期よりA、Bの合計が改善されたものです。質問は児童向けの文言です。

【学習面】()内の%はAB合計を前期と比べ上昇したものです

○ ほとんどの項目で、児童および保護者の皆様の評価に改善が見られました。このことについては、職員一同大変うれしく思います。

質問項目6、9より

- 6「学習した内容が分かる」については、児童、保護者様ともに改善(児:6.2%、保:2.1%)しました。
- 一方で、9「先生たちは分かりやすい授業をしている」の質問に関しては、保護者の皆様の評価は改善(2.9%)しましたが、児童評価は下がってしまいました(▼1.4%)。

現在、大淵第一小学校では、子どもたちが「学習の見通しをもち」「多様な考えを伝え合い、考えを広げ深める学び合いを通して、考えを再構築し」「自分の考えをつくり、追究する」授業を目指して取り組んでいます。私たち教員も含めて、これまでは、教師は教える立場で子どもたちは教わる立場という授業観が一般的でした。しかし、これからの授業は、国、静岡県、富士市においても【自ら考え、自ら学習する授業】に転換することが求められています。つまり、学ぶ内容は決められていますが、子どもたちの思いが学び方に生かされる授業に変わっていきようとしています。これは、私たち大人が、これまで受けてきた授業からの大きな変化です。本校でもそのような授業を目指して取り組んでいる最中です。そのため、「もっとはっきり教えてほしい」という思いを子どもたちはもつのもかもしれません。今後の授業づくりにおいて、子どもたちが自分たちで考えられようになるために、【教えるべきこと】と【考えさせること】を教員がしっかりおさえ、自律的に学ぶ力を育むことができるような単元(授業)づくりを心掛けていきたいと思えます。また、それと同時に大切なのが、教師は子どもたちの学びの伴走者という意識です。私たちにとっても、これまでの教育観からの転換を必要とするため、難しい面がありますが研修を重ねていきます。

現在、大淵第一小学校では、子どもたちが「学習の見通しをもち」「多様な考えを伝え合い、考えを広げ深める学び合いを通して、考えを再構築し」「自分の考えをつくり、追究する」授業を目指して取り組んでいます。私たち教員も含めて、これまでは、教師は教える立場で子どもたちは教わる立場という授業観が一般的でした。しかし、これからの授業は、国、静岡県、富士市においても【自ら考え、自ら学習する授業】に転換することが求められています。つまり、学ぶ内容は決められていますが、子どもたちの思いが学び方に生かされる授業に変わっていきようとしています。これは、私たち大人が、これまで受けてきた授業からの大きな変化です。本校でもそのような授業を目指して取り組んでいる最中です。そのため、「もっとはっきり教えてほしい」という思いを子どもたちはもつのもかもしれません。今後の授業づくりにおいて、子どもたちが自分たちで考えられようになるために、【教えるべきこと】と【考えさせること】を教員がしっかりおさえ、自律的に学ぶ力を育むことができるような単元(授業)づくりを心掛けていきたいと思えます。また、それと同時に大切なのが、教師は子どもたちの学びの伴走者という意識です。私たちにとっても、これまでの教育観からの転換を必要とするため、難しい面がありますが研修を重ねていきます。



質問項目8について

○ 読書については、半数以上の子が、家庭での読書時間が週30分に以下でした。

学校では、毎週月曜日に15分間、昼に5～10分間読書の時間を設けています。また、テストが終わった後やちょっとした隙間時間に自然と本を出して読む姿が見られています。それらを家庭での読書習慣につなげていきたいです。そのためにも、図書室で借りた本を持ち帰る日を設けるなどの取り組みを取り入れていきたいと思えます。

令和6年度後期 調査結果 比較					
A:とてもそう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない					
※1…学校教育目標等に関連項目 ※2…富士市全体の重点項目					
※色付きは、前期から改善が見られた質問項目です。		A	B	C	D
2	あなたは、友達の話分かろうとして聴いている。	児童 48.4	45.6	5.4	0.6
	保護者	22.7	71.3	5.4	0.5
3	あなたは、自分の考えを相手に分かるように伝えている。	児童 34.7	49.6	13.5	2.2
	保護者	10.9	66.1	22.5	0.5
5	じゆょうで自分で考えることやクラスみんなで話し合ったり学び合ったりすることはたのしい。	児童 41.1	41.1	15.3	2.6
	保護者	23.3	67.2	8.5	1.0
6 ※1 ※2	あなたは、学校で学習した内容が分かっている。	児童 43.9	45.9	8.2	2.0
	保護者	12.1	72.4	14.0	1.6
7	あなたは、家で計画的にすすんでべんきょうやしゅくだいをしている。	児童 36.9	37.3	19.2	6.5
	保護者	12.4	47.8	33.6	6.2
8 ※1	あなたは、学校図書館で本をかりたり、家で1週間に30分以上本を読んでいる。	児童 22.0	28.0	28.4	21.6
	保護者	11.4	25.8	38.8	24.0
9	先生たちは、分かりやすい授業をしている。	児童 61.6	31.6	6.0	0.8
	保護者	12.9	78.3	7.8	1.0
10 ※2	授業でタブレットなどのICT機器を使っている。	児童 49.4	39.5	7.9	3.2
22	4、6年生の皆さんに聞きます。算数の授業で、子どもの人数(にんずう)を減らして教える授業は分かりやすい。	児童 51.4	31.8	11.7	5.0

【生活面】

○ 生活面については、全ての項目で児童の評価が向上しました。

質問項目15、20より

○ 15「あなたは、自分に良いところがあると感じている」の質問は、児童・保護者の皆様ともに向上しました。
(児:0.5%、保:1.8%)

行事ごとに頑張っていた友達を見付けてカードに書き、それを放送で伝えたり掲示したりしました。また、帰りの会でその日の良いこと見付け(学級によって呼び方は違っています)や、日頃プラスの声掛けを意識したりするなど、自己肯定感を高められる支援を行ってきた成果が出たと嬉しく思っています。しかし、まだ3割程度の子が自分に良いところがあると感じられていない実態があります。来年度は、学校評価で「自分から分かろうとしている」という質問項目を入れます。これは、たとえ結果が思ったようなものでなかったとしても、目標に向かって努力できた自分を認められるようになってほしいという願いがあります。



保護者の皆様や教職員など、子どもたちを支える大人がそういう関わり方をすることで、より一層子どもたちの価値観を変えられたらと思っています。

○ 20「あなたは、困ったことや悩みがあるとき、学校に相談しやすい。相談できる先生がいる。」の質問項目についても、児童・保護者共にポイントが向上しました。

(児:7.8%、保:6.2%)

学習面でも述べたように、周りの大人は自ら育とうとする子どもたちの伴走者です。また、子どもたちは発達中の人間です。間違いや失敗をすることもあると思います。そう

いったときに、大人が答えを出してしまうのではなく、一緒にどうすればよかったのか考えることで、子どもたちは大人に頼れるのではないかと思います。これは、大人にとってもとても大切な力です。一人で何もかもできる人はいません。だからこそ、周りの人たちと助け合う必要があります。そのような子どもたちに育てていくために、温かい気持ちで見守る気持ちを私たち大人は持ちたいと思います。そうした取組の先に、CとDのように否定的な回答をする子どもたちがさらに減っていきばうれしく思います。



質問項目14より

○ 重点目標である「主体的に取り組む」に関連する質問項目14「あなたはふだんの生活でめあて(目標)に向かって取り組んでいる」については6.4%改善しました。

このことについて、今年度、特別活動では「やってみよう」を合言葉に子どもたちと行事づくりをしてきました。また、生徒指導では「支え合おう」を合言葉に日常の活動に取り組んできました。その積み重ねで、目標に向かって自分にできることに挑戦できた結果ではないかと思います。この良さを、令和7年度も継続して、子どもたちの主体性をさらに伸ばしていきたいと思



令和6年度後期 調査結果 比較

A:とてもそう思う B:そう思う C:あまりそう思わない D:そう思わない

※1…学校教育目標等に関連項目 ※2…富士市全体の重点項目

※色付きは、前期から改善が見られた質問項目です。			A	B	C	D
1 ※1	児童	学校、学級はたのしい。	50.0	39.7	8.1	2.2
	保護者		33.1	59.9	5.9	1.0
4	児童	ともだちと協力して、なかよく学校生活をおくっている。	50.7	40.8	7.4	1.2
	保護者		28.4	65.6	5.4	0.5
11	児童	あなたは、友達を「さん」をつけて呼んだり、あたたかい言葉遣いで話したりしている。	31.6	45.7	16.7	6.0
	保護者		12.1	66.4	18.6	2.8
12	児童	あなたは、友達や地域の方、先生に自分からあいさつをしている。	46.6	35.5	13.3	4.6
	保護者		13.7	58.9	23.5	3.9
13 ※1	児童	あなたは、周りの友達に対して思いやりのある態度がとれている。	38.9	50.0	9.1	2.0
	保護者		17.3	74.9	7.5	0.3
14 ※1	児童	見:あなたは、ふだんの生活でめあて(目標)に向かって取り組んでいる。	40.7	40.5	14.5	4.4
	保護者		8.5	55.0	33.9	2.6
15	児童	あなたは、自分に良いところがあると感じている。	36.9	33.3	21.6	8.1
	保護者		12.1	73.1	14.5	0.3
16	児童	あなたは、友達の良いところを見つけられた。	59.2	34.1	6.2	0.6
	保護者		17.6	72.6	9.8	0.0
17	児童	あなたは、ふだんの生活の中で、自分や周りの人の安全や命を大切に生活ができる。	53.3	38.6	7.7	0.4
	保護者		20.2	71.6	7.8	0.5
18 ※2	児童	あなたは、地震や火事がおきても「自分の命は自分で守る」をいしきし、安全な落ち着いた行動ができる。	53.2	35.5	9.7	1.6
	保護者		12.1	63.6	22.7	1.6
19	児童	あなたは、ふっちゃん体操や体育の授業、休み時間によく外に出て、体を動かしている。	48.7	27.0	18.9	5.4
	保護者		34.4	43.7	19.6	2.3
20 ※1	児童	あなたは、困ったことや悩みがあるとき、学校に相談しやすい。相談できる先生がいる。	56.9	26.0	10.3	6.7
	保護者		12.1	70.0	16.3	1.6
21	児童	係や当番の活動やそうじなど、自分ができるところにすすんで取り組んでいる。	54.4	35.3	8.7	1.6

【学校運営面】

質問項目 23 より

○コミュニティスクールについて、改善は見られましたが、いまだ3割弱の方が学校の教育活動への参加に抵抗を感じています。

先日、マチコミマールを通じて案内させていただいたように、保護者だけではなく、地域の方々に学校運営に携わっていただける仕組みを作ろうと思っています。また、私たち教職員も、校外学習だけでなく、体育や家庭科や図工などといった授業でもっと保護者の皆様の協力を取り入れていくようにしていきたいと思っています。

質問項目 25 より

○0.8%とわずかではありますが、ABの合計が下がってしまいました。

このことは、23と合わせて、もっと保護者や地域の方々にも学校運営に携わっていただき、地域で育てていく学校づくりを進めていきたいと思っています。どのようなことができるか、学校運営協議会の方々と熟議を重ねていきたいと思ひます。

【保護者の皆様からのコメントより】

(1) 保護者の皆様からのご意見やご提案(自由記述より一部抜粋)

- ①PTAの朝の声かけ当番ですが、自分の子どもが家を出る前に出たり、町内ごとに場所が決められているとはいえ登校で自分の子どもが通らない交差点に立ったりするのは少し疑問に思ひます。
- ②高学年になって友達関係の難しさを感じています。自分で解決する力も付けさせたいのですが、それでも解決出来ない事が沢山あります。そんな時は先生の力を借りてお互い理解し合えたらと思ひます。我が子も含め子どもの心のケアが難しくなっている気がします。どんな事、言葉が友達に嫌な思ひをさせてしまうか。家庭でも会話があれは学べる事だと思ひますが、今それを伝える時間がない家庭があるのも現状だと思ひています。
- ③子ども同士のトラブルや、ケガの報告があまりなく、理由が分からないので親同士で勘違いも生まれやすい状況になる場面がありました。原因がわかれば謝罪もできますし、家庭でも子どもと話がしやすくなります。
- ④決まりの中で生活するのも大切だと思ひますが、色々な所でもっと子どもに判断を任せるのも、今の時代は大切かと思ひます。なんでも友達と同じで安心ではなく、個々の考えを伸ばして欲しかったなと思ひます。枠から外れた子を批判するのではなく、全てが個性と認められる様な子どもたちになっほしいです。
- ⑤トイレも老朽化で不衛生な感じがします。子どもたちが身近に使用するものが少しでも綺麗になっくれたらと思ひます。
- ⑥普段の学校生活のことに関する質問は、親は見ることができていません。質問に答えづらひです。
- ⑦最近個人差が出るようなもの、例えば運動会のリレーやマラソン大会など特に運動面で競争するものがどんどん排除されているのがすごく残念です。もっと競い合う内容があってもよいと思ひます。

①は、これまで皆様に取り組んでいただいた「声掛け運動」についてのご意見です。他にも未就学の小さいお子様を連れて立ったださっている姿も見ます。今年度、このような実態やお声から、生活指導部で活動内容を見直しました。正式には来年度のPTA総会で提案がありますが、今の皆様の家庭や仕事の実情を考慮して、輪番制ではなく家の近くなどで都合のつく時間に見守りを行っっていくものです。また、見守り強化週間を設け、保護者の皆様だけでなく地域の皆様にも活動に協力をいただける準備を進めています。



②と③にあるように、発達段階に応じて様々な困り感をもつ子どもたちがいます。普段から、そして、特にそのようなときは、学校と家庭でお子様の成長を支えていく必要があります。そこで大切なのが「情報の共有」です。その点で学校からの連絡が不足していたことは大変申し訳ございません。しかし、多くの保護者様が家庭でもお子様と話をし、必要に応じて、お子様に声を掛けて、時には、どのようにしていったら、より良い方向に進んでいけるのか一緒に考えてくださっています。今後もご家庭と学校で子どもたちのより良い成長を支えていけるよう情報共有をし、同じ方向を向いて子どもたちに関わっっていくように努力してまいります。

令和6年度後期 調査結果 比較					
A:とてもそう思ひ B:そう思ひ C:あまりそう思ひない D:そう思ひない					
※1…学校教育目標等に関連項目 ※2…富士市全体の重点項目					
※色付きは、前期から改善が見られた質問項目です。		A	B	C	D
23	本校はコミュニティスクール(CS)になっ5年目になります。CSディレクターが中心となっ、地域や保護者の方々为学校の教育活動に参加しやすくなっと感じる。	8.5	62.8	25.3	3.4
24	学校は、お子様の安全を確保するための取組や努力をしている。	14.2	77.8	7.2	0.8
25	大淵第一小学校は開かれた学校で、安心してお子様を任せられる学校であると感じる。	18.1	74.7	6.7	0.5

④のご意見は、本当にその通りだと感じます。また、本校でも大切にしたい考えの一つです。以前「複数の価値観を作る」という言葉聞いたことがあります。これは、「自分の考えや習慣が世の中の全てではなく、実に多様性に満ちている」ことが分かるということです。そして、そのことを理解すると、自分の得意なことも不得意なことも受け入れることができ、自分は自分のままでいいと思え、生きやすさにつながっていくということです。ただし、当然ですが、他者を傷つけたり、自分を傷つけたりするような行為(世の中の法律に触れるような行為)は許されません。だめなことははっきりと伝え、子ども自身が考えて解決すべきことは考えられるように支えてまいります。

⑤について、来年度、東校舎のトイレの改修工事が行われます。市と連携しながら少しずつ環境改善に努めているところです。また、先日、保護者の皆様から環境整備にご協力いただける方を募集させていただきました。来年度以降、児童数が減り続ける可能性が大きく、子どもたちと教職員だけでは学校全体をきれいに保っていくことが難しくなってきます。そこで、保護者の皆様だけではなく、地域の方々にも協力をお願いして子どもたちの生活環境整備ができる準備を進めてまいります。ご協力いただける方は、ぜひお力をお貸しくださいますようお願いいたします。



⑥について、なかなか普通の学校の様子をみていたくことができいていません。来年度は参観日を4回設定させていただきますが、それだけでは見えない部分が多いかと思われます。他にも学校だよりや学年だより等で学校の情報を発信させていただきます。日頃お子様と学校の様子を話すことができるご家庭ばかりではないと思いますので、年2回行っているアンケートの際に、お子様と学校の様子を話していただけると幸いです。

⑦について、複数のご家庭から同様のご意見をいただきます。現段階として、昔のようなマラソン大会や色別対抗のように競い合うOMOの実施はしない方向で考えています。



マラソン大会を開催しない根拠として、体育の学習指導要領に、体づくり運動領域(陸上運動領域ではなく)の持久走に関する内容として、「無理のない速さで、〇〇分走る」(低学年=2~3分・中学年=3~4分・高学年=5~6分)と表記されていて、一定のペースで走ることが学習内容として示されています。一定の距離をいかに速く走るのではなく、同じ時間で自分の目標に向かって練習方法を工夫したり、友達同士で励まし合ったりしながら走ることをねらいとしています。得意な子は「どこまで距離を伸ばせるか」、不得意な子は「決められた時間歩くことなく走り続ける」など、個々の目標ができることで、持久走=「苦しい」「嫌い」となりにくいのです。今の体育では、その他の内容でも同じように個々の目標(球技ではチームの目標になることもあります)を達成させるためにどのようにするのがよいか考えて取り組むことが求められています。

また、競い合うOMOについては、OMOを子どもたちが主体性を育む場と捉えているためです。同じ学年の仲間と争うのではなく、力を合わせてOMOを成功させる関わりを子どもたち同士ができるようにしていきたいと考えていますので、どうかご理解いただけますようお願いいたします。

(2) 保護者の皆様からいただいた、本校のよいと思うところ(自由記述より一部抜粋)

- ①学年関係なく、仲の良いところ。
- ②地域が子どもたちの安全に協力的なところ。
- ③いろいろな行事だけでなく、普段の生活の中でも保護者の手伝いを呼び掛けてくれるところ。
- ④欠席すると電話で様子などを聞いてくださり、ありがたいと思います。
- ⑤学校に足がなかなか向かわない子に対しても、否定をせず受け入れようとしてくださる場所。
- ⑥先生方が子どもたちの良いところを伸ばす関わりをしてくれている場所。
- ⑦OMOで、子どもたちが前面に立って取り組んでいる場所に感動しました。



①~③は、大淵一小的の良さです。今年度、中学校と合同のSL集会を実施しました。その場面でも異なる学年の子ども同士で楽しく過ごせました。また、様々な場面での見守りをお願いすると、多くの方が名乗り出てくださり、とてもありがたく思います。

④~⑥においても、「明日も行きたくなる学校」を目指して取り組んでいる教職員にとって、とてもうれしい言葉です。今後も、子どもたちや保護者の皆様を中心として、地域の皆様にとっても「明日も行きたくなる学校」となるよう努力してまいります。

最後に⑦のようなお声もいただきました。子どもたちの行事になるよう、今後も保護者の皆様や地域の方々を力を合わせて子どもたちを支えていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくようお願いいたします。